

おのれお見しました。お（お）稿
の序文もお見しました。お人々
世の二の同もうとるのていなる極
内輪の方ニ二（お）生としてお（お）
（お）まにまのいから、おものもい
（お）れお人を保ぶ程とあるも
のほ、お入札になるの（お）か
えれおさん。お（お）まよの
（お）に（お）お（お）る（お）は（お）又（お）い
ます（お）。（お）ろ（お）す（お）し（お）ろ（お）へ（お）て（お）見（お）ま
（お）が（お）ご（お）う（お）も（お）お（お）接（お）（お）者（お）じ（お）上（お）お（お）な
（お）方（お）と（お）る（お）もの（お）。（お）な（お）ん（お）と（お）な（お）く（お）生（お）（お）れ（お）が
（お）の（お）り（お）に（お）く（お）い（お）。（お）さ（お）り（お）と（お）て
刑士にはまつ

仙臺市新坂通

一七四、小宮豊隆

十二月二十七日